

大果系キュウリ品種「Nevada」、「KU-369」の特性と省力効果

〔要約〕大果系キュウリ品種「Nevada」、「KU-369」は、本県の主要品種より収量が多く、主要品種に近い歯切れ感を持つ。これらの品種を利用すると、収穫果数が約半分であるために、収穫・調製・出荷作業の省力化が図られる。

園芸研究所・野菜花き部・野菜栽培研究室

連絡先

092-922-4111

部会名	園 芸	専 門	育 種	対 象	果菜類	分 類	指 導
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

〔背景・ねらい〕

近年低迷しているキュウリの消費の拡大を図るためには、新しい需要の創出が求められている。また、生産面では、全労働時間の約半分を占める収穫・調製作業の省力化を図る必要があり、これらの課題を解決する一つの方法として、現在のキュウリ品種の一部に替わる大果系キュウリの導入が効果的であると考えられる。

そこで、国内外から収集した品種の中から、収量が多く、果実の歯切れ感が現在の国内の主要品種に近い大果系品種を選定するとともに、省力効果を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

供試した24品種の中から、大果系品種「Nevada」、「KU-369」を選定した。これらの品種特性は以下のとおりである。

- 1 「Nevada」、「KU-369」は、本県の主要品種に比べて草勢が強く、葉が大きい。主要品種の雌花着生率が低下する高温長日期においても「Nevada」はほとんど雌花が着生し、「KU-369」は雌花着生率が高い（データ略）。

「Nevada」にはイボがなく、「KU-369」にはわずかに見られる。両品種とも果色は淡い（データ略）。

- 2 「Nevada」の促成栽培では、主要品種「シャープI」以上の収量が得られる（表1）。また、「KU-369」は、夏秋雨よけ栽培と促成栽培において「Nevada」より収量が多い（表1）。

- 3 「Nevada」と「KU-369」は、主要品種に近い歯切れ感を有している（表1）。

- 4 「Nevada」の抑制栽培では、慣行品種に比べて収穫果数が約半分であるために、収穫・調製・出荷にかかる労働時間は約半分となり、品種特性から整枝・摘葉等にかかる労働時間は約2/3となる（表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 福岡県野菜推奨品種一覧に登載する。
- 2 キュウリの新たな需要の創出や産地化を図るための資料とする。
- 3 7月～8月の収穫では軟果が発生しやすい。
- 4 「KU-369」は、7月～8月に播種する作型では雄花の着生により種子ができて品質が低下することがある。

[具体的データ]

表1 夏秋雨よけ・促成栽培における大果系キュウリの収量・果実の歯切れ感(平成7～9年)

年次	品 種 タイプ	品 種 名	夏秋雨よけ栽培			促成栽培			歯切 れ感 評価
			果数 (本/㎡)	果重 (g)	収量 (t/10a)	果数 (本/㎡)	果重 (g)	収量 (t/10a)	
平成 9年	ロング	Nevada	24.6	360	8.8	42.3	277	11.7	○
	セミロング	KU-369	29.2	348	10.2	48.0	272	13.1	○
	ショート	Minirex	41.4	296	12.3	69.0	219	15.1	×
		Samar	41.0	278	11.4	92.6	209	19.4	×
平成 7年	ロング	Nevada	—	—	—	77.4	288	22.3	○
	(比較)	シャープ I	—	—	—	136.2	137	18.7	◎

注) ①夏秋雨よけ栽培(平成9年): 3月19日播種、4月16日定植、5月19日～7月16日収穫

②促成栽培(平成9年): 9月24日播種、10月28日定植、12月30日～4月30日収穫
 〃 (平成7年): 9月27日播種、11月8日定植、12月9日～5月30日収穫

③歯切れ感評価: 「シャープ I」の歯切れ感を◎とした場合に、それに近い歯切れ感を有する品種を○、歯切れ感が悪い品種を×とした。

表2 ハウス抑制栽培における大果系キュウリの所要労働時間(平成9年)

作業名	労働時間(10a当たり)		労働時間 の比率
	Nevada(大果系)	なおよし(慣行)	
整枝・摘葉・摘心	80 時間	120 時間	67%
収穫・調製・出荷	230	410	56
その他作業時間	144	144	100
合計	454	674	67

注) ①10a規模で行ったF町での現地試験の結果から試算した。

②労働時間は10a当たり収量を6tとした場合の数値で、比率は「なおよし」の労働時間に対する「Nevada」の労働時間の比率を示す。

[その他]

研究課題名: 大果どりキュウリの品種選定及び作型適応性

予算区分: 経常

研究期間: 平成9年度(平成8～9年)

研究担当者: 山本幸彦、月時和隆、満田幸恵

発表論文等: 平成8、9年度 園芸研究所 野菜花き部 野菜試験成績書

福岡県農業総合試験場第15回研究成果発表会講演要旨

大果系キュウリの果実品質の品種間差異、園芸学会雑誌別冊65(2)、1996